

昭和女子大学 小論文対策講座

駿台予備学校 講師

1 昭和女子大学のアドミSSION・ポリシー

昭和女子大学は、「世の光となろう」を建学の精神とし、[知識・技能] [自主・自律] [協働・調和] の教育目標と学位授与方針を定めています。これを達成するために定められた教育課程に従い学修する資質と能力を備えた入学者を受け入れます。そのために多様な入試方法で入学者を募集し、多面的、総合的に選抜します。

[知識・技能]

- ・入学を希望する学部・学科の教育課程で必要となる教科・科目の知識・技能ならびにその表現・活用方法を身につけている。

[自主・自律]

- ・自身の目標をもち、学部・学科の教育課程に従い専門知識・技能を主体的に習得する学習習慣を身につけている。

[協働・調和]

- ・様々なプロジェクトに参画し、活動の中で他者と協働し目標達成・問題解決を図る意欲がある。

本学の教育目標に基づいてアドミSSION・ポリシーに記載した [知識・技能] [自主・自律] [協働・調和] は、文部科学省が提示する「学力3要素」に下記の表のような対応をしています。知識・技能は、学力の3要素における①「知識・技能」の確実な習得と②（①を基にした）「思考力・判断力・表現力」に対応します。自主・自律および協働・調和は③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度「主体性・多様性・協働性」に対応します。

アドミSSION・ポリシーと「学力の3要素」の対応

アドミSSION・ポリシー	学力の3要素
知識・技能	①「知識・技能」の確実な習得 ②（①を基にした）「思考力・判断力・表現力」
自主・自律	③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 「主体性・多様性・協働性」
協働・調和	

2 小論文の種類

「小論文」といっても種類は様々ですが、大きく分けると3種類です。

- A 課題文を読んで、内容をまとめたうえで意見を述べる
- B グラフや表を読み取り、データをもとに意見を述べる
- C 与えられたテーマにそくし、意見を述べる

→「自分の意見」を書く必要がない現代文と違って、小論文では「意見の論述」が求められます。

3 小論文に必要な5つの力

小論文の対策を始める前に、まずどのような力が必要なのかを考えてみましょう。

そうすると、以下の5点が必要だと気づきます。

- A 課題文を読み取る力（読解力）
- B グラフや表を読み取る力（分析力）
- C 与えられたテーマについて自分で考える力（思考力）
- D 適切な具体例を挙げる力（知的好奇心）
- E 説得力のある文章を書く力（記述力）

→どの力も、大学生活はもちろん人生を生き抜くために必要な力ですね。

4 昭和女子大学で出題される小論文の傾向

- A 字数…800字～1000字
 - B テーマ…言語・家族・医療・自己・経済・労働・食・教育・社会・歴史・福祉・宗教・建築など、学科に対応
- 自分の志望する学科に関するテーマについて、深い知識と考察が求められます。

5 合格のための対策

- A 課題文やグラフ・表などの読み取りの練習をする
- B 志望する学科に関するテーマについての本を読む
- C 日々、新聞やテレビのニュースから知識を得る
- D 800字（以上）の文章を書く（必要に応じて、添削してもらう）
- E 漢字や慣用句を覚える

+

- F 過去問を解く（可能なら、添削してもらう）

6 具体的な対策

A 課題文を読み取り、要約する（→現代文の授業で対策）

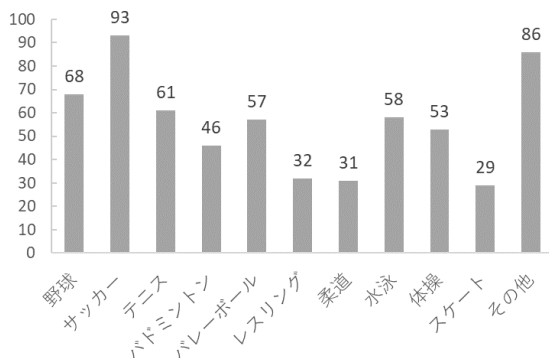
- ・文章の中で繰り返されている【主張】を見つけ、100 字程度（最大 300 字程度まで可。慣れていない場合は字数を気にせずまとめるのも良い。）でまとめる
- ・まとめる際、【具体的な内容（具体例）】は書かなくて良い
- ・慣れないうちは難しいが、何度か書けばコツがつかめるようになってくる

note

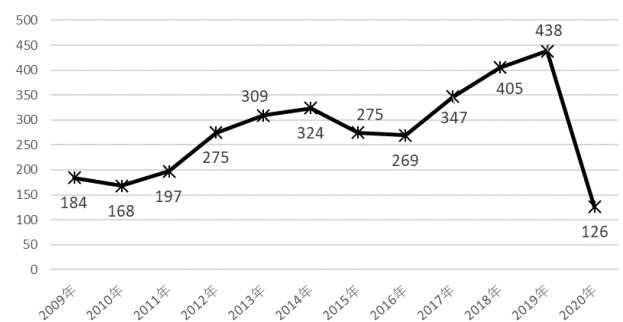
B グラフの読み取り方の基本

- ① 棒グラフ …… 棒の高さで、量の大小を比較する
 - ② 折れ線グラフ …… 量が増加しているのか減少しているのか、変化の方向をみる
 - ③ 帯グラフ …… 全体の中での、構成比（求める要素が全体に対して占めている割合）をみる
 - ④ 円グラフ …… 構成比を比較する
 - ⑤ その他
- ※「表」が出題されることもある

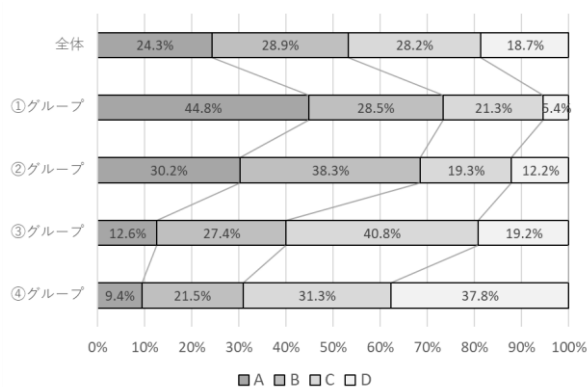
① 好きなスポーツ調査結果（N中学校）



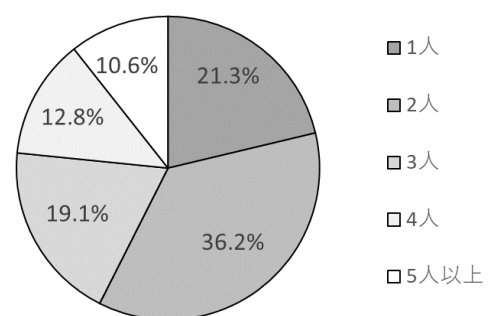
② 年間来場者数（2009年～2020年） 単位：1000人



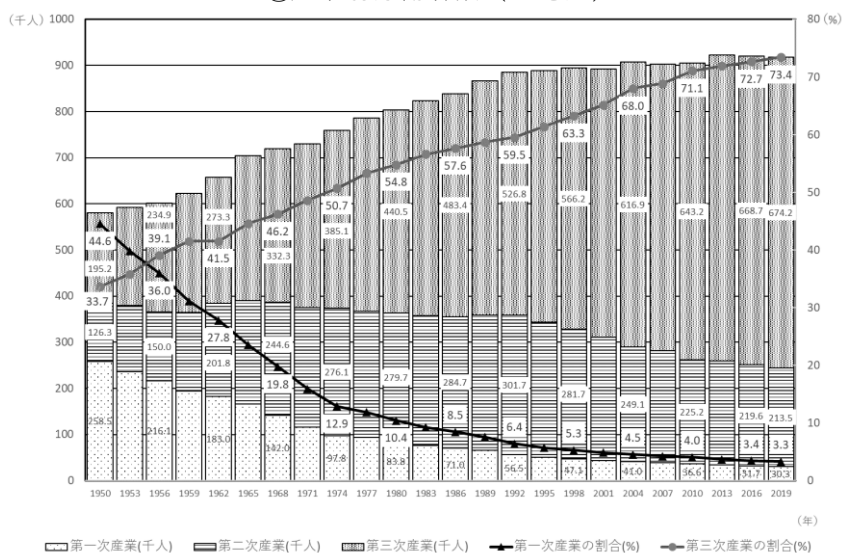
③ 各グループの回答状況



④ 家族の人数（A町）



⑤ 産業別労働者数（S地方）



C 専門性を身につける

- ・志望する学科の過去問に目を通す
- ・出題されている文章の出典を探し、読む
- ・志望する学科に関連のある本を読む
- ・新聞などの記事で気になったものは切り取ってファイリングする

D 書く！書く！とにかく書く！

- ・まずは日記からでも良いので、文章を書く習慣を作る
- ・現代文の授業で扱った文章を 200 字程度で要約してみる
- ・C で読んだ本や新聞記事の要点を 200 字程度で要約してみる
- ・書いたら、大人に添削してもらう（文法的なミスだけでも良いのでチェックしてもらう）

E 漢字や慣用表現を覚える

- ・参考書を一冊用意する
- ・声に出しながら、書いて覚える（インプット）
- ・自分で文章を書く時に、覚えた言葉をなるべく使う（アウトプット）

【演習】

次の文章は、寺田寅彦「数学と言語」の一節です。これを読んで、100 字～150 字程度に要旨をまとめましょう。

なお、出題の都合上、一部改変した部分があります。

平凡な実際問題として見た時にも、数学の学習と語学の学習とは方法の上でかなり似通った要訣^{ようけつ}があるようである。

語学を修得するにまず単語を覚え文法を覚えなければならない。しかしただそれを一通り理解し暗記しただけでは自分で話す事もできなければ文章も書けない。長い修練によってそれをすっかり体得した上で、初めて自分自身の考えを運ぶ道具にする事ができる。

数学でも、ただ教科書や講義のノートにある事がらを全部理解しただけではなかなか自分の用には立たない。やはりいろいろな符号の意味をすっかり徹底的にのみ込む事はもちろん、またいろいろな公式をかなりの程度まで暗記して、一度わがものにしてしまわなければ実際の計算は困難である。

それで語学も数学もその修得は^{いっきかせい}一気呵成にはできない。平たくいえば、飽きずに急がずに長く時間をかける事が、少なくとも「必要条件」の一つである。

ただしこれだけでは「充分なる条件」ではない。いくら単語をたくさん覚え、文法をそらんじてよい文章は書けないと同様に、いくら数学に習熟してもそれで立派なオリジナルな論文が書けるとは限らない。これはいうまでもない事である。

数学が一種の国語であるとしても、それはきわめて特別な国語であることには間違いない。少なくとも高等数学となると一般世人にはあまり用のないこと、あたかもサンスクリットやヘブライのようなものである。用がないから習わない、習わないからたいそうむつかしく恐ろしく近づき難いもののように思われ、従ってそれに熟達した人がたいそうえらいものに見え、それをつづられた文章がたいそうありがたいもののように見えてくる。読んでみると実はたわいのないようなくだらないものであっても尊いお経のように思われるかもしれない。そういう傾向はたしかにある。文典の巻末にある作文や翻訳の例題と同格な応用数学的論文もなくはない。

現代の物理的科学は確かに数学の応用のおかげで異常の進歩を遂げた。この事には疑いもないが、その結果として数学にかからない自然現象は見えて見ぬふりをしたり、無理に数学にかけうるように自然をねじ曲げるような傾向を生じてくる。この弊がこうじるとかえって科学の本然の進展を阻害しはしないか。

あらゆる自然科学は結局記載の学問である。数学的解析は実にその数学的記載に使われるもっとも便利な国語である。しかしこの言語では記載されなくても他の言語で記載さるべき興味ある有益なる現象は数限りもなくある。

あまり道具を尊重し過ぎて本然の目的を忘れるのは有りがちな事であるから、これもよく考えてみなければならない。

【解答】

数学も語学もその習得は一朝一夕にはできず、長く時間をかけて学ぶことが大切だ。しかしそれだけでは立派な論文は書けない。数学という特殊な言語は物理学の異常な進歩を可能にしたが、数学で表現するために自然を歪めるという弊も生んだ。数学はあくまでも道具であり、その尊重のあまり本来の目的を忘れてはならない。(149 字)